

# 日本政治学会会報

## The JPSA News

NO. 12

December 1986

ご あ い さ つ

松 下 圭 一

このたび、大役をおおせつかりましたが、はたせ  
ますかどうか、責任を痛感いたしております。

日本政治学会の会員数は、今年1986年の総会時  
にとうとう1000名をこえました。学会は1948年  
にわずかの方々で出発しています。私の入会が1952  
年ですが、ながい間数百名台にとどまります。この  
ときにくらべますと隔世の感があります。1000名  
をこえたということは、学会としても新しい画期と  
考えてよいと思います。

しかし、会の規模が1000名をこえるという量の  
拡大は、また会の運営方法にも改革をおこなって  
いかなければならないことを意味しているといえます。  
政治物理学的「法則」として、規模の拡大はシステ  
ムを変えるというのは御承知のとおりです。日本政  
治学会にもこの「法則」が作用していくとおもいま  
す。

さいわい、会員ならびに歴代理事会の御努力によ  
って、現在、政治学会は企画、年報、文献、渉外と  
いう4つの常置の委員会、これに選挙管理委員会を  
くわえて、分権的に運営されております。

現在、理事会33名、常置の4委員会はほぼ2年前  
後の活躍となりますから、毎年、企画、企画、年報、  
年報、文献、文献、渉外の7委員会が活動してい  
ることになり、各委員会10名前後とみますと、70名と  
なります。また学会担当校、研究会報告者、年報執  
筆者で30名ぐらいいらっしゃいます。

全部で約130名ですがだぶる方もありますので、  
常時100名の会員の方が活躍されておられること  
になります。100名といえば、会員10名のうち1人の  
割合になります。それに2年毎に交代がおこなわれ  
て漸時世代がかわっていきます。

今後、また、臨時の委員会も種々増えるとおもわ  
れます。その意味では、学会運営の分権化はますます  
進行していきます。分権化こそが学会の活力源と  
考えております。

分権化といえば、今日、日本では国際化と対応し

ているのですが、実は日本政治学会もおなじく、国  
際化をいかにはかるかという事態においこまれてい  
ます。「光栄ある孤立」の時代は終わったといいき  
つてよいと思います。

まず、第一が、学会間外交のはじまりです。先年も  
学術会議会員の選出方法が変わりました結果、会員は  
個人立候補ではなく、学会代表という性格になってし  
まいました。そのため、とくに、学術会議の第二部  
会政治研連の構成をめぐって、たえず学会間調整が  
必要となってきました。それに学術会議全体が学会  
間外交、対政府外交の場になりつつあります。

このため、日本政治学会は3年に1回、学術会議  
会員候補の決定という大変むつかしい問題に直面せ  
ざるをえないことになりました。この会員候補の選  
出方法のルール化が日本政治学会の今後のおおきな  
課題としてのこされております。

そのうえ、科学領域の専門分化は学会の数をふや  
していきます。その結果一定の定数ワクをめぐって  
たえず学会間の再調整が日程にのぼり、その都度具  
体的に対応していかなければならなくなります。これ  
は非常に複雑な事態を意味します。第二に、IP  
SA東京ラウンドテーブルを成功させることができ  
たという経験をもっていますが、IPSA世界大会  
の日本開催問題が懸案としてのこされています。こ  
の件については、ひろく会員周知ですので、くわし  
くふれませんが。

この懸案については、前理事会の申し送りをうけ  
て、最初の新理事会で、1年限時の検討委員会をも  
うけ、オープンに議論し、情報と論点を整理してい  
ただくことにしました。もちろん、これは準備委員  
会ではありません。

現在、以上のように、日本政治学会は否応なく  
「実務」として解決しなければならぬきびしい問  
題に直面しました。それに今後も「実務」課題はふ  
えていくと思います。賢明なる御推察をお願いいた

(次頁へ)

## 1986年度研究会・総会開催される

1986年度の研究会は、10月4日(土)、5日(日)の両日、龍谷大学において開催された。300名を越える多数の会員の参加を得て、充実した報告と討論とが行われた。とりわけ2日にわたって日本の政治を検討した共通論題には予想を上まわる会員が出席し、高水準の報告と活発な質疑応答の下に白熱した議論が展開された。また、4日の夕に催された懇親会も多数の会員が出席し、にぎやかな交流の場もたれた。

第1日目の昼食時に開かれた総会では、田北開催校理事の司会の下に、千葉乗隆龍谷大学学長の御挨拶、西川理事長の退任の挨拶、各委員会よりの報告、木村監事より1985年度決算、大童常務理事より1986年予算(いずれも前号会報に掲載)の報告、岩重政敏(千葉大学)新監事の承認、事務局報告、松下新理事長の就任の挨拶がなされた。

なお、来年度の研究会は、10月3日、4日の両日、東京の日本大学で開かれる。

## 松下新理事長体制スタート

松下理事長の下での新体制が次のように決定した。なお、常務理事には前回の総会で成沢光会員があたること、また田中監事の後任には今回の総会で岩重政敏会員(千葉大学)があたること承認されている。

企画委員長 87年度 堀江 湛(慶応義塾大学)  
88年度 福井英雄(立命館大学)  
年報委員長 88年度 山口 定(大阪市立大学)  
89年度 三谷 太郎(東京大学)  
文献委員長 87年度 今中比呂志(広島大学)  
88年度 阿部四郎(東北大学)  
渉外委員長 87-88年度 内田満(早稲田大学)  
事務局 常務理事 成沢 光(法政大学)  
幹 事 武藤博己(法政大学)

します。

しかし、なんといっても、学会の基盤は、会員間の「研究」の交流だといえましょう。

会員間の交流は、年1回の学会や、各委員会レベルだけでなく、日常の交流にはなんといっても名簿の整備が必要とおもわれます。会員間の研究交流がしやすいような新名簿づくりをおこなうため、今回

## 理事会記録から

◎1986年度第2回理事会

(1986年10月4,5日 龍谷大学)

[報告事項]

1. 成沢常務理事より前理事会からの以下の申し送り事項が報告された。
  - (1)日本学術会議の会員候補及び同会員推薦人の選出方式について検討すること。
  - (2)IPSA世界大会の日本での開催の可能性及びそれに伴う諸問題を検討する委員会を設置すること。
  - (3)文献委員会について、自己申告制を継続すること。
  - (4)年報・研究会の拡充問題について再検討すること。
  - (5)学会法人化問題について検討すること。

2. 委員会報告

- (1)堀江企画委員長 現在考慮中である。  
福井 " 現在考慮中である。
- (2)山口年報委員長 年報のテーマは「福祉国家—理念・構造・危機」とし、委員10名が決定した。  
三谷 " 現在考慮中である。
- (3)今中文献委員長 委員10名が決定した。  
阿部 " 委員の人選について折衝中。
- (4)内田渉外委員長 中国科学院からの招待に対し、西川前理事長を派遣することに決定した。

[審議事項]

1. 来年度の理事選挙のための選挙管理委員会委員長に西尾孝明(明治大学)理事が任命された。
2. 88年度の研究会会場として広島大学が第1次候補となること了承された。
3. 名簿作成方式を検討するための臨時委員会の設

あらたに名簿作成(臨時)委員会を理事会におくことにいたしました。

今後、私にはぜひとも御批判、御叱声をいただくとともに、理事会、各委員会、とくに新設のIPSA世界大会検討委員会、名簿作成(臨時)委員会に御意見、御協力をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

---

# 学 会 ニ ュ ー ス

---

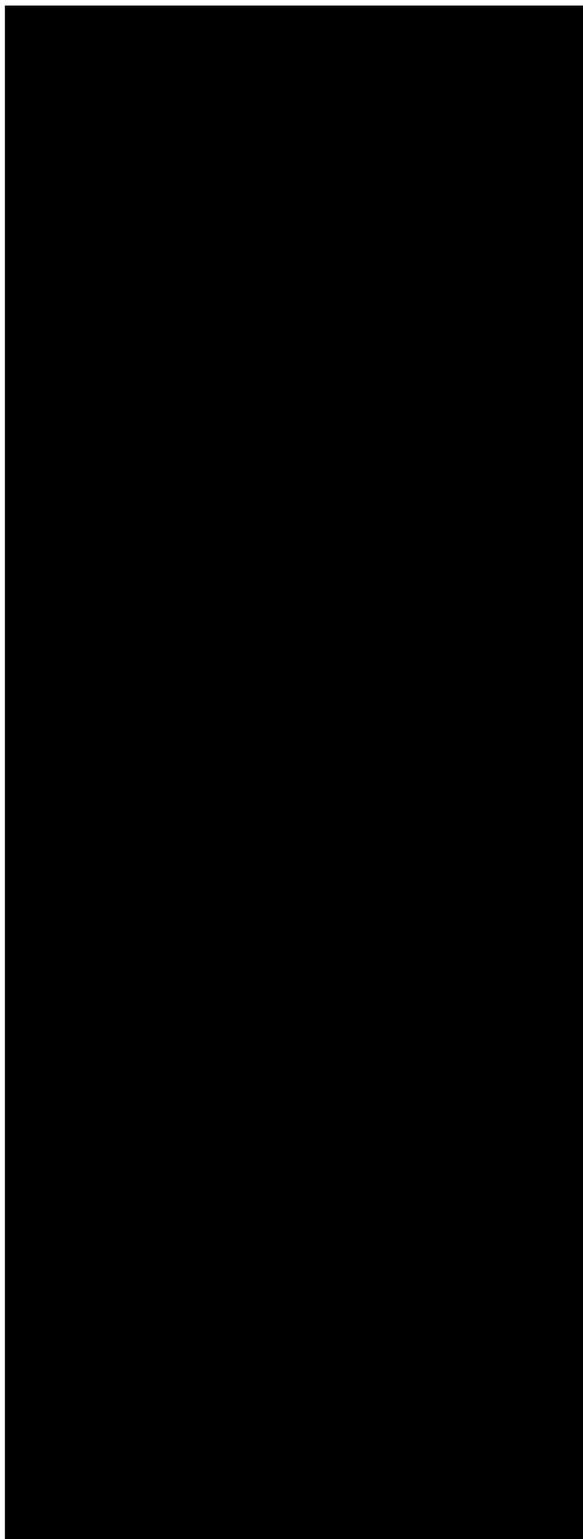
置が了承され、委員長に内山秀夫(慶応義塾大学)理事が任命された。

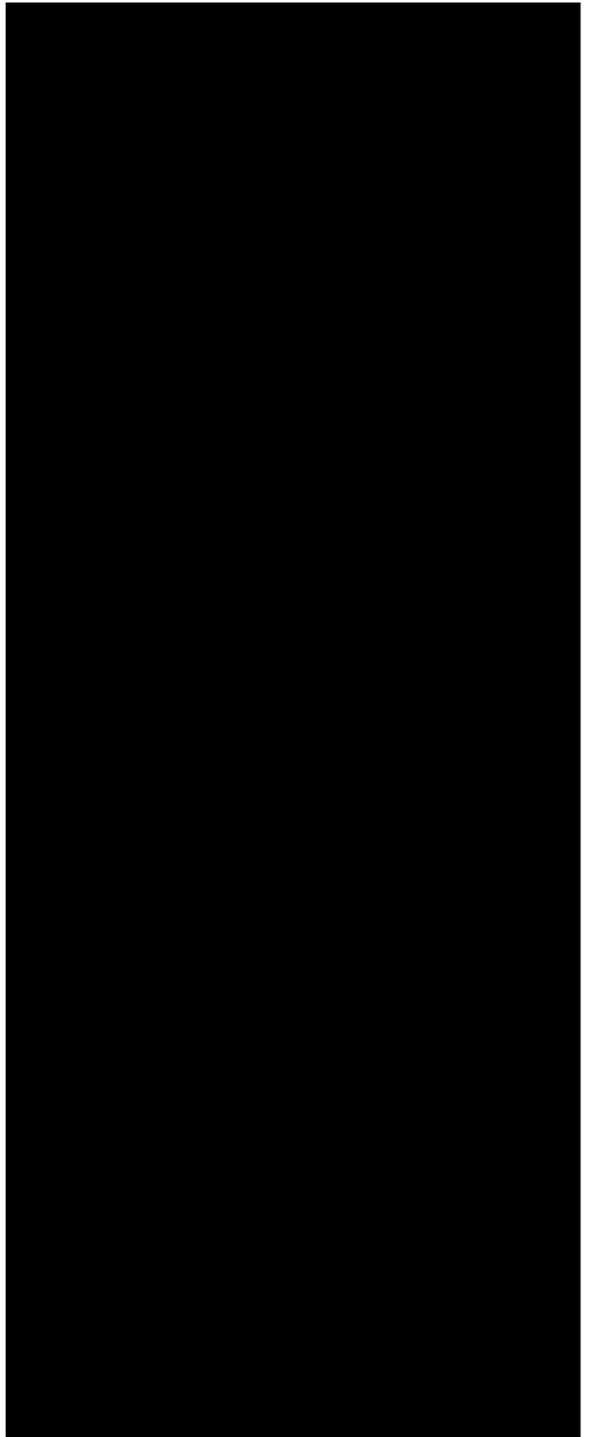
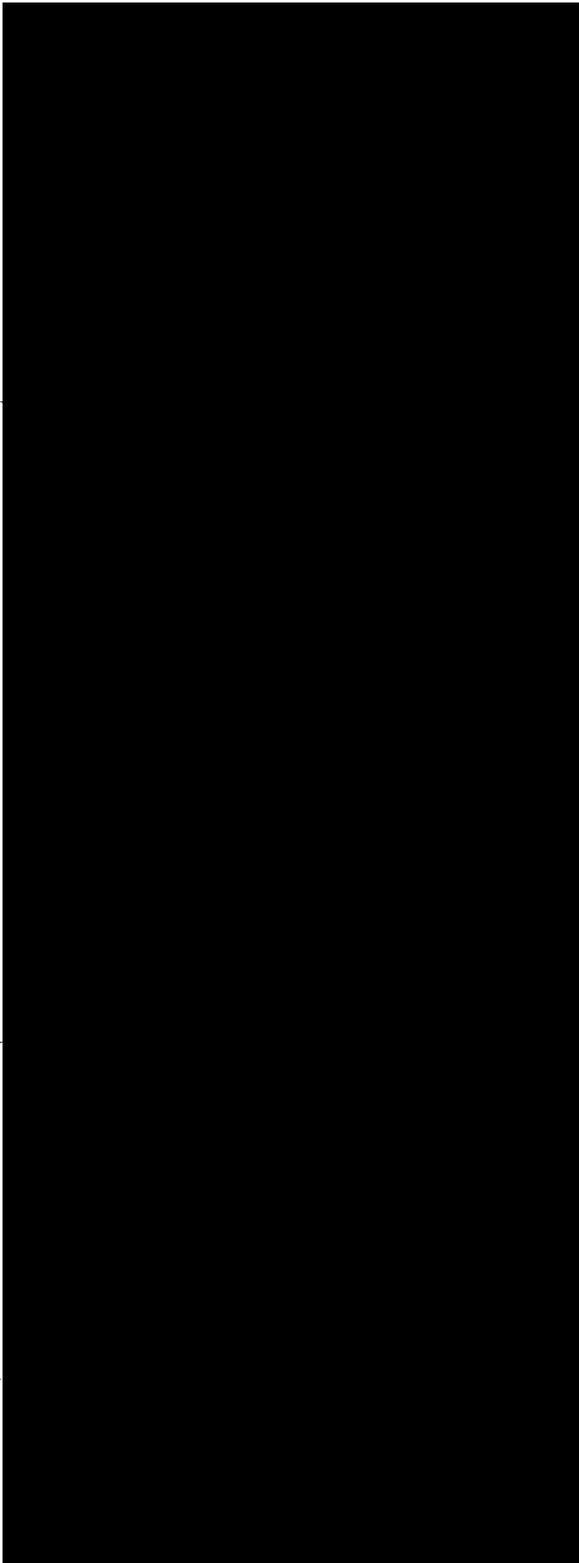
- 4 IPSA世界大会開催に伴う情報・論点の整理のための検討委員会の設置が了承され、委員長に有賀弘(東京大学)理事が任命された。

## IPSAニュース

世界政治学会では個人加盟の会員を募っている。申し込み用紙のコピーを本会報を郵送する際に同封するので、広く御利用して頂ければ幸いである。

## 会 員 の 異 動





1986年12月1日

発行 日本政治学会事務局

成 沢 光

〒102 東京都千代田区富士見 2-17-1

法政大学80年館武藤研究室内

TEL 03(264) 9729 直通

郵便振替番号 東京 0-84250

加入者名 日本政治学会